



恵みの座

畑野 基

▼日本フリーメソジスト教団・岸之里教会牧師
ウエスレーに学ぶ会々長

「わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるためにはばかることなく恵みの御座に近づこうではないか」

——ヘブル四・16——

秋の全国各地で聖化交友会にかかわりを持つ聖会の開かれるシーズンである。

聖会で、メッセージに続いて「恵みの座」がプログラムに組み込まれる事も多く、そこで会衆は主の臨在のもとに生きる者と変えられ、また献身の生涯に入れられる経験をする。

一八〇六年、北米ニューヨーク市の一教会の聖会で、リバイバルが起きた。人々は、主の臨在のもとに語られたみ言葉に心探られ、罪を自覚し、救いを求めて祈り始めた。各自が聖霊に支配されてそれぞれに祈るので集会が混乱に陥りそうになった。

牧師は、祈り求めたい者は、自らの座席を離れ、聖壇の前に進み出て心一つにして祈り、また、聖霊の取り扱いに従うようにと奨めた。会衆はそれに従い、静かに聖壇の前に出て膝まずいた。深刻な罪の告白、新生、きよめの確信への祈り求め、また感謝の祈りが相次いだ。

このことが数年のうちに各地に行き渡り、聖会でのこのような祈りの場を「恵みの座」とよぶようになっていった。

聖会において、聖霊の光のもとに自己の真相を自覚させられ、自らのたましいが必要とすることを知り、それを求めたいとの願いの起されるのは、神が与えていておられる「時機」である。この「とき」を失ってはならない。「自らの決断」のもとに、その決断を形にあらわして前に進み

出て心を注ぎ出すべきである。恵みの座での勝利が聖会の中心でありたいものである。

アメリカのメソジストの基礎を築いた者の一人、フランシス・アズベリーは、一八一一年、当時、発展し始めていたキャンプでの聖会において、「恵みの座」を大切にするようにと次のように述べている。「キャンプ集会、戦いの斧であり、戦争の武器である。——これによって邪悪な城壁を打ち崩し、地獄の要塞を破壊することができると」。

日本での「聖書的聖潔」による信仰復興の大波は、「恵みの座」の大切にされることから始まることを切に期待してやまない。

(岸之里教会牧師)

きよめと宣教の教会

伝道型教会形成の一考察

■日本基督教団・東京新生教会牧師

横山 義孝

キリスト者が言葉と聖霊によつてきよめられ、より全きに向つての成長が約束されていることは何とすばらしいことでしょうか。ところで聖徒たちが、それに相応しい奉仕へと整えられる(エペソ4の12)のは無人の真空の中ではなく、むしろ様々な人間関係が渦巻く教会に於てであり、就中、教会がその託されてある伝道、救霊の宣教的使命を達成する交わりの中に於てなのです。即ちキリストの体なる教会の成長と、キリスト者個人の聖潔と成長とは一つであつて、そこには誠に生命的、有機的な関係があることをパウロは指摘(エペソ4章)しています。

(一)贖罪の恩寵とその応答としての宣教への情熱。

パウロはその書翰の各所に於て贖罪の恩寵の無償であること、その恵みへの応答としての内に生きて下さるキリスト御自身の躍動的なみわざとして、キリスト者の使命を明確に述べています。「慈愛による神の恵みの絶大な富を来るべき世々に示す」(エペソ2の7)こと、「生きる

にも死ぬるにもわたしの身によつてキリストがあがめられる」(ピリピ1の20)ことである。彼の渴望はただ、自らによつて幾人かの魂が救われること(1コリ9の19、23)以外の何もでもなかったのです。彼があかしている品性の結実(ガラ2の22)目標をめざした完成への追求(ピリピ3の12)、再臨の主への期待(IIテモテ4の1、8)等は凡て宣教者パウロの信仰の告白です。

(二)教会の全人的成長とキリスト者。

次に注目したいことは、エペソ書に於てパウロがキリスト者個々の成長を、教会の全人的成長と生命的に一つのものとしているという事です。(エペソ4の13、16)ここには明らかに聖徒たちをとのえて奉仕のわざをさせる(同12)教職の任務と、その教えと訓練とに忠実に服して、共にキリストのからだを建てあげ、信仰と知識の一致によつてキリストの満ちみちた徳の高さまで至る、信徒の役割とが、教會的・有機的に提示されています。個人としては立派であるが、共に教会を建てあげるといった点では、どうも協調性に欠けたり、身勝手な自己主張や独善的行為の故に、交わりの中のつまずきとなつて、それ故にキリストにある一致をあかすことが出来ないといった存在の人が無いわけはありません。

キリストに連なる肢々が「愛にあつて真理を語り、あらゆる点に於て成長」(同15)することがこの場合必須条件です。しかし課題はそれだけではありません。

(三)伝道のビジョンに満ちた教会の交わり。

問題はどのような教会形成を目ざしているかということ。教会が地上に派遣されている目的はただ一つです。即ち福音の宣教・伝道救霊以外のほかにありません(エペソ3の8、11)。この目標からそれて、サロンの消極的な内向きの交わりには、キリスト者を真にきよめ、成長させる聖霊の注ぎはないといわねばなりません。救霊への渴望と、天の処にある悪の霊(エペソ6の11、12)を凝視した切願をもつて主のみにひれ伏すとき、聖霊は力をもつて臨んで下さり愛と真実・希望と喜び、自我磔殺の霊として信仰と決断へと魂を引きあげ、全き聖化を成就して、成長成熟へと進ませて下さるのです。ハレルヤ。

★ 第8回聖化大会のお招き ★

第8回聖化大会実行委員長

チャーチ・オブ・ゴッド川崎南部教会牧師 伊藤 昭吉



聖書の中心使信こそ

ホーリネス

第8回聖化大会に本誌読者の諸師、諸兄弟をお招きできることを嬉しく存じております。

この度の主講師であるガレス・コックリル博士は米国ウエスレー・ビブlical・セミナリーの教授で、数年前に出版された「ウエスレー・パイブル」の新約の部における編集の責任を負われた新約聖書学者であります。またアフリカのシエラレオネにおいて宣教師としての経験も持ちの神の器です。

私たちはこの度の大会の準備を進めるに当たり、葛田眞實会長の指導のもとに一つのコンセプトをもつて臨みました。それは「聖書の中心使信こそホーリネス」ということです。聖潔とそれに続くクリスチャンの霊的あるいは実際の営みのすべては聖書の教えの一部ではなく、聖書全体の中心的使信であるということ。この視点から語られるコックリル博士のセミナー「聖書全体から見たホーリネス」に期待がかかります。また毛戸健二先生、朝比奈寛先生の「私の聖潔の生涯を貫いた聖書のみことば」と題する講演をお聞きできることはなんと時宜にかなつたことでしょうか。

また本田弘慈先生を講師として迎え、年々祝福され数においても他の集會を凌駕しつつあるJHA女性大会は見逃せません。

願わくは聖化大会が各教会のリバイバルの導火線とならんことを祈りつつ、講師、諸兄弟が昨年にも倍する関心を喚起され、ご参加されるようにお祈りしております。

新刊書の紹介

コツカリル博士著 『ヘブル書の学び』

とにかく

分かり易い

何となく分かったようで分
りにくい書——それがヘブル書
です。

しかし本書は、そうした偏見
や先入観を見事に打ち破って
ると言えます。

文体の平易さがその大きな特
徴で、日本語訳も「である」調を
避けて「です、ます」調を用い
ました。

内容の一貫性がもうひとつの
特徴です。

- ・キリストの十全性
- ・贖罪の完全さ
- ・旧新約の見事な調和

が全巻を貫いています。

副題が「その意味とメッセー
ジ」とされていますように、正
確な釈義に裏打ちされた、実際
たられました。

的な適用が本書の第三の特徴で

す。ヘブル書全体をカバーして
はおりませんが、一二の代表的
な箇所が本文も添えて採り上げ
られています。

著者ガレス・L・コツカリル

博士は、現在、米国ミシシッピ
州にあるウエスレー・ピブリ
カル・セミナーの新約学教授と
して活躍しておられ、

先ごろ出版された「ウエスレ
ー・パイブル」の新約の編集者
であり、同書のマルコ伝、ヘブ
ル書の執筆も担当されました。

セントラル・ウエスレアン大
学、アズベリ神学大学院（ユニ
オン神学大学院（聖書学専攻で
哲学博士号取得）で学ばれた同
師はアフリカのシエラ・レオネ

の務めを果たされた器でもあり
ます。

翻訳には、同教授のもとで学
ばれた葛田直毅、林正弘両師と
セミナーの理事竿代忠一師が当
たられました。



「文書を通して聖書のホーリ
ネスの宣証を」との願いをもつ
て、三五年前に興されたEPA
（福音文書刊行会・きよめの立
場の二一団体が傘下にあり）の

第四〇冊目にあたる本書をお送
りできることを心から喜んでお
ります。

教職を問わず、信徒を問わず
この著者が、神とそのみことば
を受するすべての人々に読まれ
愛され、実践されますように祈
りつつ、紹介のことばとさせて
いただきます。

「B6版 一四三ページ」
【定価 一、六〇〇円】
（紹介文・竿代忠一）



今聖化大会の

女性大会に期待する

▼女性大会委員・
ウエスレアン・ホーリネス教会連合
八潮伝道所牧師 桑原 信子

激動し、複雑化する社会で誰
もがみな、悩み苦しんでいる問
題、それは人間関係です。人間
関係の破れによっていろいろな
不幸や禍が引き起されています。
この解決は今年の女性大会のテ
ーマ「聖潔に生きる女性」にあ
たんと人を結び和解の福音」によ
る以外にないという事を思う時
今年女性大会に大いに期待し
ています。昨年の大会にやはり
人間関係で悩んで出席された一
人の婦人は「原因は私だった」
と知らされ「わたしはキリスト
と共に十字架につけられた……」
キリストがわたしのうちに生き
ておられるのである」との恵み
を与えられました。一人の変化
は家族の変化へと繋がります。
大会講師の本田弘毅先生は、
「天国に近いのうちに住み
給う人を変え、新たにするイエ
ス・キリストを力を尽して伝え
たい」といわれています。女性
大会においてイエス・キリスト
による大いなる御業がなされる
と信じ、祈ります。この大会が
悩みの中にある多くの方々の喜
びにあふれた歩みへのスタート
の時となりますように。



主講師 プロフィール
ガレス・L・コツカリル博士

米国のウエスレー・ピブリカル・セミナーの副学長また教授であり、
約三年前に刊行された「ウエスレー・パイブル」の新約部の編者となら
れた器で、専攻が新約聖書、特に研究された部分が、論文等によると
「ヘブル人への手紙」と伺っております。

米国ウエスレアン教会の教職であられ、若き時代は十数年間をアフリ
カのシエラレオネで、ウエスレアン宣教師として奉仕された経験の持ち
主であられます。

米国セントラル・ウエスレアン大学を皮切りに、アズベリ神学大学
院、ユニオン神学大学院にて、聖書学専攻で哲学博士号その他諸学位を
獲得して居られ、セントラルとアズベリにては首席で卒業された由。今
回、同伴して来日されるご夫人と三人のご息女と共に敬虔な家庭を営ま
れて居られます。

学位をもって評価された学識、国外宣教師経験を含む豊かなご奉仕の
業績、セミナー教授としての配慮、敬虔な家庭形成の裏付けに視された
現代二十世紀後半の聖潔の視将の一人と目される神の器です。

篤き祈りと期待を以て、コツカリルご夫妻をお迎えしたく思います。
（聖化大会案内チラシより引用）

地域だより

札幌聖化大会

「第五回札幌聖化大会」は一九九三年五月一九、二十日の両日、札幌市の北海道クリスチャン・センターを会場に開催されました。

今回の大会は、日本福音連盟の後援を頂き同連盟の「札幌大会」併催という形が取られ、連盟の理事の諸先生が、説教その他のご奉仕に当たって下さいました。

二回の聖会の説教は村上宣道先生が、詩篇五一・四一―一九、とピロビ一・二二―二六から、それぞれ、きよめの「恵み」と「歩み」についてお語り下さいました。

また、「婦人大会」では連盟理事長の樋口茂先生がご奉仕下さいましたほか、お二人の先生による「教会ときよめ」についての講演、集会毎のお証しなど、実に内容豊かな集会となりました。特に、集会の間には経験豊かな先生方との交わりを通し

ての様々な恵みに浴しえましましたこと、幸いでした。

出席者は、聖会百八十名、婦人大会九七名でした。
以上、感謝してご報告致します。
(事務局局長 高橋養二)

宮城聖化交友会

宮城聖化交友会主催による今年の仙台聖化大会は五回目を迎え、去る九月十日(金)の午後と夜の二回、新築後三年程の素晴らしい日本基督教団青葉荘教会

を会場に、関東聖化交友会々長、インマヌエル主都中央教会主任牧師の葛田真賀先生を講師としてお迎えし、幸いな集会をもつ事がゆるされました。午後二時よりの婦人大会では、同伴された葛田敬子先生の「聖潔の証し」に引続き、「ヨブ記を通しての聖潔」が先生のお証しを交えて、淳々と語られ、七十数名の出席者にとつてみことばの恵みと共に聖潔の素晴らしさを拝聴する事が出来、感謝でした。夜七時からの聖会では、雨にもかかわらず、青森、岩手、山形、福島からの方々も含め更に多くの方々が出席された。聖協団宮城聖書教会の田中時雄先生の証しや婦人の先生方による特別讃美のあと、「JHA」の一員として私の信ずる「きよめ」について、プリントを用いて、二時間近くにわたる幸いな講演を講師より頂いた。遠来の講師に心より感謝を申し上げます。
(報告・田中 敬康)

栃木聖化大会

- ◎日時 10月15日(金) 午後7時30分
- ◎会場 コンセーレ大ホール (旧栃木県青年会館)
- ◎テーマ 「聖潔とリバイバル」
- ◎講師 ガレス・L・コッカリル博士

第6回 東海聖化大会

- ◎日時 10月21日(木) 午後と夜
- ◎会場 福音センター(イマヌエル名古屋教会)
- ◎テーマ 新約聖書に輝くホーリネス
- ◎講師 ガレス・L・コッカリル博士

第4回 九州聖化大会

- ◎日時 11月17日(木)と18日(金)
- ◎会場 ナザレン熊本教会
- ◎講師 村上 宣道師、
竿代 忠一師

第25回 ジョン・ウェスレーに学ぶ会

- ◎日時 10月22日(金)
- ◎会場 日本フリーメソジスト教団 大阪日本橋教会
- ◎内容 公開講座「聖書から見たホーリネス」
聖会「聖潔に生きるキリスト者」
- ◎講師 ガレス・L・コッカリル博士



▼今秋の聖化大会も直前に迫って来ました。聖化」第16号をその案内号としてお届けすることができ、心より御名を崇めています。今秋の全国各地で開催される聖化大会の祝福と、さらに多くの地で聖化運動の拡大がなされるように、心からお祈りするものです。(編)

(事務局)